

みなさんのまち、クルマを使わず生活できますか

—あきらめる前にできることを考える—

2018年10月23日 於：ホテル熊本テルサ

話題提供者：大井 尚司（大分大学経済学部門／減災・復興デザイン教育研究センター）

連絡先： ooi-hisashi@oita-u.ac.jp

*当日はパワーポイントスライドを提示して講演を行います。当日提示の資料は九州運輸局交通企画課および熊本県交通政策課に提供いたします。以下には掲載（話題提供）を予定しているキーワードを記しております。

1. はじめに—クルマと私、生活を考える

- 公共交通 VS 車 ?
「イコールフットイング」「ロードプライシング」・・・
自動車産業と公共交通産業
どちらが不公平（不利益）？
- クルマで支えられている部分、そうでない部分
- でも公共交通を使う—我が家の実態
- 今日の講演の趣旨
「クルマが使えない」の真実（真相）を理解する
「クルマがつかえない」＝「移動をあきらめる」にならないコツを知る
公共交通活性化のツボを知る（裏ミッション、だが本筋）

2. ある日突然クルマがなくなったら？

【ワーク】【ある日、みなさんがクルマを使えなくなった（クルマがなくなった）とします】
以下の問いに答えてみて下さい。その後、グループで意見交換してみてください。

<ワーク①>

- 現在の自宅の最寄りのバス停（バス停名、バス会社）を知っていますか？
- （知っている場合）そのバス停から自宅の略図と所要時間を書いてみてください。

<ワーク②>

- バス停を知っている場合、そのバス停からどこに行けるか書いてください。わかれば運行頻度（日に何本、時間何本）も。
- 一番よくいくところへ、いくらかかるか、何分かかかるか書いてみて下さい。

<ワーク③>

- 1週間の生活を書いてみてください（移動が絡むものを中心に）

	見本	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
活動内容 (時系列で)	730自宅発 ↓バス 830-1200 病院、買物 ↓バス 帰宅昼食 ↓車 1400-1600 公民館で書道教室 ↓車 1630- 自宅							

- 先ほどの表にかかれています活動のうち
 - 1) 公共交通ですでに移動している活動を除いて、公共交通での移動に代えることができるもの
 - 2) 公共交通では達成できない移動（活動）を抽出して、その理由をまとめてみてください。

《ワークの「こころ」》なぜこのようなことを聞いたのでしょうか

3. 「クルマを取り上げる」は可能かー免許返納は万能？

- 免許返納のメリットとデメリット

メリット：

デメリット：

- 免許返納制度の浸透度と、いつ免許をやめたいのか（意識調査の結果から）

- 「地域」のやっていることとは・・・

- 「クルマを取り上げる」が本当に可能？

4. 「クルマを使わず生活できる」まちのありかたは

- 「クルマを使わず生活できる」まちのありかたは？

ポイント① 生活機能の適切な集積・立地

ポイント② 「クルマが負担・不便・不満」な環境整備

ポイント③ ①②を支える「おでかけ（移動）」

- 先行事例の中から

5. まとめにかえて

- そもそも

「公共交通は不便」

「どうせ利用促進・免許返納なんて無理」

- よくよく考えると

「あきらめる」前にできることはある

何をするかの「的外れ」がないことがポイント

- 「転ばぬ先の杖」として